

つくし野中だより

第11号 2024、3、15

校長挨拶

柳田 拓史

3年生の皆さんへ（3月13日卒業式練習より）

3年生の皆さん。こんにちは。

こうして、3年生だけを前に体育館でお話をするのは、令和4年1月26日以来かもしれません。あの日、皆さんは翌日からのスキー移動教室を控えて、前日指導を行う予定でした。私がある場で延期を告げた時の、この体育館の空気は、今でも忘れることができません。前代未聞の宿泊学習前日の延期ということに、苦勞して準備を進めてくれた実行委員会の皆さんをはじめ、学年全体の皆さんの心は痛み、傷ついたことと思います。

私は、その日以来、今日に至るまで、その時に皆さんが作ってくれたしおりを、校長室の目に見えるところに、ずっと保管してきました。何故なら、この学年が卒業するまで、移動教室延期の事実は、忘れてはいけなく、いつか、皆さんに謝らなければいけないとずっと思っていたからです。

本当に、申し訳ありませんでした。

校外学習のしおりに、必ず実行委員長の言葉が掲載されますが、この時の移動教室も例外ではありません。その当時の委員長である山本さんの書いた言葉を紹介しながら、少しお話をしたいと思います。

ルールを守ること。持ち物については、みんなで意見を出し合うことで決めました。実行委員会で大切にすることは「議論すること」

「これはいけない」と決めていくのは簡単なこと。でも、疑問に寄り添い、一緒に考えていく姿勢をもつことで、「皆が納得するもの」になると考えています。だからこそ、皆で決めたことは、守ってください。

中略

自分の役割を果たし、みんなのために行動することが求められます。一人ひとりには「責任」があることを忘れないでください。規則と自由は共にあることが大切です。

中略

私は「みんなの笑顔が見られる」というゴールを心の中に描いています。クラスとして体育祭や合唱祭という行事を創り上げてきた絆。学年として「進化」してきたこと。今までの私たちより「もっと先へ」。

私たちは、つくし野中学校の歴史上、最も美しく最高の行事にしたい。そう願っています。3日間を振り返って、「良かったね」と自然に口にすることができるように、実りある経験にしましょう。

どうでしょうか。皆さんが1年生の時に読んだ時とは、同じ文章でも受け止め方や、感じ方は異なることと思います。いや、卒業を目前に控えた今だからこそ、響く言葉もあったのではないのでしょうか。

私は、今を遡ること5年前に、つくし野中学校に赴任しました。

最初の一年間は、皆さんの先輩方の授業や行事、様々な言動をじっくり観察させてもらいました。そして、この学校の生徒なら、生徒が自ら考え、判断し、行動できる学校に出来ると確信しました。

切り口のひとつとして、SDGSを授業に導入したり、今に引き継がれている校則の改正を生徒主体に出来るよう、担当の先生に依頼したりと、「生徒が主役の学校に」を目標に、取り組んできました。

でも、気がつけば、このスキー移動教室のしおりからもわかるように、皆さんはあらゆる場面で、自ら考え、議論して、判断することの出来る中学生として、立派に成長してくれました。そのことが、本当に嬉しいです。そして、頼もしく映ります。

皆さんの人生は、これからです。これから生きる世の中には、中学校の9教科では学びきれなかった、社会に出たからこそその学びや課題が、山ほどあります。その壁にぶつかった時に、自ら考え、判断し、多くの仲間と知恵を絞って解決していくことが、必ず求められます。だからこそ、つくし野中学校在学中に、皆さんが、その力を身につけてくれていることを、嬉しく思うのです。

3年生の皆さん。あと2日ですね。

どうか、最後の日を、つくし野中学校の歴史上、最も美しく最高の卒業式にしてください。そして、3年間で振り返って、「良かったね」と自然と口にできるように、実りある2日にしてください。そんな皆さんの後ろ姿を静かに見守り、温かい気持ちで送り出したいと思います。

あっ、合唱については、全く心配していません。きっと素晴らしい歌声が体育館に響き渡ること間違いなしです。「これぞ、つくし野中学校」という合唱になることでしょう。自信をもって歌ってくださいね。3年生の皆さん。卒業おめでとう。

I組の卒業生の皆さんへ

I組を卒業する7名の皆さん。こんにちは。

先日の、I組での卒業生を祝う会に出席させてもらって、皆さんの成長を喜ぶ気持ちと、別れの時が訪れてきた寂しい気持ちが相まって、なんともいえない心境でした。

でも、一人ひとりの言葉を聞きながら、この教室で3年間、十分に学んだ皆さんにとっては今が、新たな環境に飛び立つ最善の時なのだと思えました。別れは寂しくもあるけれど、卒業式では、笑顔で皆さんを送り出したいと思っています。

たくさんの行事が、皆さんの在学中にはありましたね。

体育祭。大縄跳びでは、当日何回も何回も、繰り返し縄が回り続けている様子をみながら、I組の皆さんの掛け声と歓声が聞こえてきました。先生方も一緒になって、大喜びしている姿が今でも目に焼きついています。

音楽祭。張り詰めた静寂の中に響いたハンドベルの優しい音色と歌声。会場全体が、I組の発表に惹きつけられるような魅力がありました。

修学旅行。残暑厳しい3日間でしたが、初日の奈良、2日目の京都班行動、3日目のタクシー行動と立派にやり遂げました。宿舎においても、部屋でしっかりと会議を行っている様子が見られ、「さすが、3年生」と思わせる光景でした。

宿泊学習。伊豆長岡での1泊2日の行程でした。ゆーみんフック号から見た相模湾に生息する魚たちの群れや、餌を求めて群がる海鳥たちに興奮しましたね。また、三島スカイウォークでは、素晴らしい景色を堪能しながら、とびきりの笑顔で、記念写真も撮りました。と語れば、I組の皆さんとの思い出は、枚挙に暇がありません。どんな時もチームワークを大切にして、困難を乗り越えて、喜びに変えてきたI組の皆さん。いよいよ卒業です。I組で出会った仲間との思い出を大事に、胸のポケットにしまい込んで、健康に気を付けて、これからの新たな人生を堂々と歩んでください。もし、つくし野中学校のI組を思い出すことがあったら、たまには訪ねてください。卒業おめでとう。そして、ありがとう。

保護者の皆様へ

お子様のご卒業おめでとうございます。3年間にわたり、本校の教育活動に、ご理解・ご協力、また、ご支援を賜りましたことを、深く御礼申し上げます。

さて、卒業式には、お子様のお名前を担当が読み上げ、卒業証書を授与する場面があります。私は毎年の卒業式で、一人ひとりのお子様のお名前を聞きながら、15年前に、この世に生を受けた時の様子が、脳裏に浮かびます。わが子が無事誕生したことを誰よりも喜び、幸せに思い、泣いては不安を覚え、笑っては安堵の気持ちになり、その一挙手一投足に注目して、愛情を注がれた様子を、想像するに難くありません。

そして、可愛いわが子の将来を願って、試行錯誤を繰り返しながら、世界でたったひとつの名前を授けられたのだと思います。

卒業式において、お名前を、お呼びする「呼名」とは、本人はもちろんのこと、名付けられた保護者の皆様の、お子様に対する願い・思いを受け止める瞬間でもあり、私にとっては、とても大事な崇高な時間です。

そのお子様も、義務教育9年間の学びを終え、新たなステージへと旅立ちます。私は、生徒の皆さんが、本校在学中に身につけてもらいたかったことの一つに「共生」があります。何故なら、多様な生き方や考え方、または文化や言語、習慣の異なる人々が、互いに認め合い、支え合いながら手を携えて生きていくことの重要性を、今の時代ほど感じることはないからです。

そして、「認め合い、支え合いながら生きていくこと」は、理念としてはすぐに理解できますが、実際の社会生活の中で実現することが、いかに困難なことであるかは、現在の世界情勢を鑑みると明らかです。

本校においてもご承知のように、体育祭・音楽祭をはじめとする多くの行事が、教育活動の一環として、行われています。学級や小グループを母体として、多くの行事は企画されていますが、どの行事にも共通しているのは、互いに議論し、異なる考え方や方法について相

互理解を深め、当日を迎えようと努力することです。

それは中学生にとって容易なことではなく、時に悩み、傷つき、行く手を大きな壁に阻まれることもあります。でも、生徒の様子を見てみると、そうした様々な経験から、次第に、異なる個性や考え方を認めながら、ひとつの方向性を見出す力を養っているように思うのです。

その積み重ねがやがて社会に出て、難しい局面に向き合った時に、「どうしたら、解決できるか。」「どうしたら、互いに納得出来る方法が見出せるか。」を共に考えながら、共に生きていく力となるのではないかと考えています。

いつの時も慈しみ、愛情を注いで育ててこられた、保護者の皆さまにとって、世界にたったひとつの名前を背負ったお子様の将来が、平和で、穏やかであり、だれもが幸せを感じる事の出来る世の中であることを、願っていらっしゃることと思います。

私も卒業式当日は、同じ願いを共有させていただきながら、卒業証書を授与し、温かく送り出したいと思います。

繰り返しになりますが、3年間。本当にお世話になりました。至らぬところ、尽くせぬところが多々あったかと存じますが、今日この日まで、お子様を温かく見守り、育てていただいたことに敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。

お子様のご卒業、心よりお喜び申し上げます。ありがとうございました。

つくし野中学校校歌 作詞 清藤 碌郎 作曲 本間 雅夫

いま何かが始まっている
僕たちの中で
わたしたちの間で
今日の日は明日のために
明日は今日の日のためにある
空も丘も
花も雲も
果てしなく開かれよ
ああ ああ
つくし野中学校

いま何かが燃えている
わたしたちの中で
ぼくたちの中で
現実理想のために
理想は現実のためにある
人も街も
昼も夜も
限りなく開かれよ
ああ ああ
つくし野中学校

第48回卒業生の皆さん

ご卒業おめでとうございます。

